

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 9月 14日

【評価実施概要】

事業所番号	272100926		
法人名	株式会社幸友会		
事業所名	グループホームしあわせ		
所在地 (電話番号)	〒038-2705 青森県西津軽郡鰺ヶ沢町南浮田町字金沢街道の沢55-9 (電話) 0173-82-1701		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 19年 7月 20日	評価確定日	平成 19年 9月 14日

【情報提供票より】(平成 19年 7月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・ <u>平成</u> 16年 3月 18日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤	人, 常勤換算 6.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	4,500 円	その他の経費(月額)	165 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(7月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名
要介護3	3 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢 平均	83 歳	最低	76 歳 最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	木村内科医院・福士歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>閑静な住宅地の一角に設置され、ホームの周辺には花が植えられている。近隣の訪問者もあり地域とのつながりも良好である。職員は、管理者とともに話し合っ て決められた理念の通り、常に明るく笑顔で接しており、入居者の表情にも明るさ が感じられる。 また訪問看護ステーションとの連携により、医療面もカバーされ、入浴設備(簡単 に取り外しのできるリフト浴装置)も充実しており、重度化に対応できる体制が整っ ている。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の内容においては、職員でよく話し合い、対応を行っている。 今後は、運営推進会議においても外部評価の内容を検討していく予定である。 職員の団結により、チームワークも良好である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、管理者と職員全員で話し合い作成されている。 改善が必要な部分も話し合いが行われ、資質向上に向けた取り組みが積極 的に行われている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、市町村職員、入居者家族、地域住民も参加され、3ヶ月に1 回開催されている。 取り組みが始まったばかりであり、討議内容については現在検討中である。 外部評価の内容についても、今後、運営推進会議で報告、討議する予定である。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>苦情処理においてはマニュアルを整備し、窓口が明確であると共に、入居時 にも十分な説明が行われている。 月に1回は面会に来ていただけるような配慮をし、気軽に声をかけ、細かいこ とでも意見が頂けるような雰囲気作りに努めている。苦情、要望には職員で話 し合う機会を持って対応している。</p>
	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームの行事に地域住民の参加を促したり、日々の散歩において気軽に挨拶を行う など地域にとけ込む努力が見られる。努力の成果も見られ、ホームへの来園者もあり、近隣との関係は良好である。市町村、および消防署等への広報活動も積極的であり、消防署の見学も受け入れている。今後は、地区の小、中学校への働きかけ、ボラン ティアの受け入れ等を検討し、更に交流を深めていく予定である。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で独自に作り上げた理念「笑顔が作る幸せ家族」を日々の業務に活かし、地域の方々にも笑顔を絶やさず接している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、ミーティングや職員が集まる場において、理念を伝えて話し合っている。職員は理念の中身を理解し、日々の実践にも活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	天気のよい日には近隣を散歩し声をかけている。ホームに遊びに来てくれる方々もあり、ホームの夏祭りには、地域住民に参加を促し地域交流が図られている。また、市町村、および消防署等への広報活動により、消防署の職員が興味を持ち、見学に来るなどの成果も見られている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価には職員全員で取り組み、改善点においても職員全員で話し合い改善に取り組んでいる。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>3ヶ月に1回、市町村職員、入居者家族等が参加される運営推進会議を開催している。取り組みが始まったばかりであり、討議内容については日々検討中である。</p>		<p>今後は外部評価の結果をもとにした意見交換を加えるなど、更なるサービスの質の向上を期待したい。</p>
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>管理者は市町村や消防署、警察署等に出向き、広報誌を配るなどホームの実情を伝えており、課題解決の為の協議体制が整えられている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者及び職員は、施設外で行われる研修会等に積極的に参加し、地域福祉権利擁護事業をはじめとする関係する制度の理解に努めている。また、外部研修の後には施設内で勉強会を開催し、職員全員が理解できるよう取り組んでいる。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者、職員全員が虐待に対して理解し、勉強会も行われている。</p>		<p>より理解を深め、統一された対応、虐待に対する意識統一ができるようにマニュアルの作成にも取り組んでみてはどうか。</p>

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書と契約書を用い、十分な時間をかけて説明を行い、合意を得ている。解約の際にも、その時の状況やホームで対応できる範囲についても十分に説明し、納得されるように努めている。		
10	12	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月報告され、遠方の家族には書面で伝えている。月に1回は面会に来ていただけるように家族に声をかけ、その都度報告を行っている。又、急遽受診する等必要に応じて家族に連絡している。		
11	13	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情対応の窓口が書面およびホーム内に掲示され明確である。家族の面会時には必ず声をかけて意見を伺っている。		
12	16	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職場内の人間関係も良好であり、今まで離職者は出ていない状況である。管理者、職員は働きやすい環境作りに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部の研修にも積極的に参加し、外部の研修においては報告会を設け、職員全員に伝わるように配慮されている。又、研修においては出勤扱いにするなど研修を積極的に受けやすい配慮がなされている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成19年4月より市町村の主催で6施設合同の意見交換会が行われている。職員全員が参加できるようにローテーションを組んでいる。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に施設内の見学を行い、状況によっては日帰りで通いながら慣れてもらうような個々の利用者に合わせた段階的な対応を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑や手工芸、花の水やり、洗濯、掃除など一人ひとりの役割を職員がともに行っている。職員の勤務体制においても、入居者の状況に合わせた時間差の体制であり、入居者とともに過ごせる時間が多く取れるように工夫されている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本情報には生活歴など本人のこれまでの生活や趣味などが記載されている。また、包括自立支援プログラムを使用し、個々のアセスメントが的確に行われている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画を作成する際はカンファレンスを開催し、職員の意見を反映させて行うとともに、本人・家族に意見を伺い計画に反映させている。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の定期的な見直しが確実に行われ、状況に変化があれば随時見直しを行っている。又、月に1回ミーティングを行い、入居者の状況把握と情報共有に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	殆どの通院は職員が対応している。訪問看護との連携もあり、医療が必要な状態になっても、入院することなく入居を継続できる体制が取れている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時にかかりつけ医について説明を行い、家族が希望する医療機関が利用できている。</p>		
22	44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>かかりつけ医の往診と訪問看護との連携により、本人・家族より希望があれば、可能な限りホームで生活ができるよう取り組んでいる。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員全員が個人情報保護の重要性を理解し、日々の支援を行っている。個人の記録用紙等も見られないように、生活空間には置かず、決められた場所できちんと管理がなされている。</p>		<p>マニュアルを作成するなど、より理解を深めていくことが期待される。</p>
24	49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>希望により買い物に出かけたり、畑に行ったりと入居者の希望をできるだけ取り入れ、その日に合わせて臨機応変に対応している。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の準備、後片付けは職員がともに行い、同じものを食している。本人の嗜好に合わせて、代替品を用意したり、近隣からの差し入れがあるときには、そのときによりメニューを変更して食事を楽しんでいる。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>夜間に入浴できる体制ができており、希望に合わせた対応を行っている。入りがらない入居者には体を拭いたり、足浴を行ったりして対応している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>畑に出たり、花に水をあげたりと個々に役割を持ち、また、役割が自然に出来上がるなど、個々に役割を持つような配慮がなされ、入居者は意欲的に生活できている。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天気のよい日には近隣を散歩し、希望に応じて買い物に出かけたり、観光に出かけたりしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束の重大性については職員全員が理解されている。</p>		<p>今以上に理解を深め統一した対応ができるようにマニュアルの作成などに取り組んでいくことが期待される。</p>
30	63	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>夜間のみ施錠し、日中は鍵をかけていない。入居者の出入りにおいては職員が見守りを行い、同行するなど閉じこもりにならないように配慮している。</p>		
31	68	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>6ヶ月に1回、避難訓練を実施している。緊急時の連絡体制や対応マニュアルも整備され徹底されている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎食、摂取状況がチェックされており、水分量においてもチェックがなされ、代替品を用意するなど、状況に合わせて対応している。</p> <p>献立は職員が交代で作成し、おおよその栄養やカロリーは考えられているが確認ができていない。</p>		<p>月に1回は栄養の専門的な観点からのチェックができるように、市町村を通して検討してほしい。</p>
33	75	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>対応マニュアルが作成されており、勉強会も行われている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		居心地のよい共用空間づくり			
34	78	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブル、椅子の他に、畳をしいているところもあり家庭的な雰囲気が出されている。花や水槽、入居者が作成した手芸品や季節に合わせた装飾品が適度に飾られ、室温や採光も適度であり不快感は感じられない。		
35	80	居心地よく過ごせる居室の配慮			
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込み品も多く、それぞれ花を置いたり、写真を飾ったりなど個性が感じられ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

 は、重点項目。